

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスベース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

台風による大雨被害に苦しむ各地のニュースが報道されています。その一方で、梅雨明け後の暑さが話題になっている所もあります。本号のニュースレターでは、まず最初に、仙台教区で活動している全部の司祭が、福島第一原発事故による被災地を視察した様子を口ボ神父が「人間は神との協力者」というタイトルで報告してくださいました。次は、カトリック八木山教会とカトリック亘理教会が協力してもり立てているオリーブの会の様子です。保育園児との交流会も、今年で3回目を迎えました。地道に教会が協力し合って継続している支援活動をご覧ください。最後にご紹介するのは、カリタス石巻ベースの活動です。例年とは違う七夕祭りをしたいということから出てきたアイディアは、「いつもと違う自分になって」楽しんだ七夕パーティーです。毎年、同じことの繰り返しではなく、しかも、被災者の方々が心の内の悲しみをひとときでも忘れて、楽しみ、笑いを取り戻して欲しいという企画です。どこのベースでもそれぞれの工夫をこらして、活動しています。どうぞご覧ください。

人間は神との協力者

神言会 ロボ フェリックス神父

2019年6月24日に仙台教区司祭団の月例会が開催されました。今回は福島の被災地視察が企画されていたので、月に一度、司祭たちに会える楽しみに、さらに東日本大震災の被災地への関心が深まりました。

まず、カトリック原町教会で小野寺洋一神父の指導の下で祈りをささげ、その後カリタス南相馬を訪れました。これまで「カリタス南相馬」として活動していたベースが、「一般社団法人カリタス南相馬」に変わり、被災者に寄り添う活動を幸田和生司教を中心に続けている方々から、具体的な活動内容を伝えていただきました。

その後、バスで視察に向かい、ガイド役のカリタス南相馬スタッフから、震災当時の周辺での出来事を詳細に教えていただきました。

特に浪江町周辺をバスの中から見たところ、目を疑うような光景でした。8年たった今も、作業員の他は人影がなく、荒れ果てた土地や荒廃した建物しか見当たりませんでした。地震、津波や原発事故によって、人間は「生と死」との戦いに直面しているように見えました。

次に、富岡町の東京電力廃炉資料館を訪れました。廃炉資料館のパンフレットの中に書かれていたことばに注意がいききました。「原子力事故の記憶と記録を残し、二度とこのような事故を起こさないために反省と教訓を社内外に伝承することは、当社が果たすべき責任の一つです」と。これは東京電力ホールディングス株式会社だけではなく、すべての人間がもっと関心と責任をもって考えていくべき重大な課題だと思いました。



道路沿いの敷地入り口には全てバリケードが張られている

除染で生じた放射性廃棄物を詰め込んだ黒袋（フレキシブル・コンテナ・バッグ）が山のようにあちこちに見られます。地元の人々は、その黒袋を「とんでもない袋」という意味も込めて「トン袋」と呼んでいるそうです。ガイドをしてくれたスタッフの話によると、一番苦しんでいるのは地元の人々であり、彼らの本音は、外部から福島を訪

れる方々がその様子を目の当たりにし、それを強く全国と世界に発信して欲しいということだそうです。彼らの痛ましい苦しみを私たちが共感することができない限り、新たな出来事は全く生まれないでしょう。そもそも幸せであった人間が欲望という境を超えてしまうと「命よりも死」、「裕福よりも滅び」への道を歩むことになるという強い意識を持たない限り、何も変わらないと思います。



地震や津波により亡くなられた浪江町民の名が刻まれた慰霊碑（2017年3月11日建立）

浪江町東日本大震災慰霊碑を訪れ、小松史朗神父が亡くなられた方々のために祈りをささげました。その後、南相馬市小高区にある「おだかぶらっとほ一む」（以下、「ぶらっとほ一む」）を訪れ、廣畑裕子（ひろはたゆうこ）さんの震災当時の話に耳を傾けました。

現在「ぶらっとほ一む」では、5人が活動しています。設立のきっかけは、ある日、隣にいた人が突然消えてしまったことにあったそうです。朝、彼と話をしたのに、夕方になるとその人はこの世を去っていたとのことでした。その時、自分は何もできませんでした。自分も消える人になっていたかも知れませんが、しかし私の話を聞いてくれる人がいたからこそ、私は恵まれていると話していました。2012年に震災後初めて自分の家を見に行った時の静けさに、言葉が出ませんでした。自分の足音以外、何も聞こえませんでした。皆はどこへ行ったのでしょうか。色も消えて、そして音も消えていたような雰囲気でした。それを見ると針に刺されるような気持ちでした。針が段々釘のようなものになっていくところから、どのように脱出したらよいか分かりませんでした。放射線は怖いけれども目には見えません。だから、自分が自分と戦っているような状況でした。自分が誰かに会いたかったから「ぶらっとほ一む」を開けようと思いました。そこには、電気がついていて、光があると思ってくれれば十分です。震災があってから1ヶ月後に小高区は人口が「ゼロ人」になったと言われていましたが、実際は3人が残っていたそうです。2016年7月には避難指示が解除になり、人が住めるようになりました。元々の人口が12,000人でしたが、現在は3,578人しか戻って来ていないそうです。最後に裕子さんの「避難指示解除とはいったい何だろう」という質問で話が終わりました。

震災を経験した人々の心的状況に耳を傾けながら、私たちもその共感を覚える必要があります。話によると、経済発展の恩恵をいただくのは一部の人間だけでしょう。経済的だけではなく、神様が私たちに与えてくださったこの宇宙万物を、善意をもってその調和のうちに働くことが私たちの使命であることに気づきました。経済的な発展の欲望から調和のとれた生活へ戻ることによって、一人一人が神様の良い協力者になって、その平和のうちに過ごすことができるのではないのでしょうか。神様の平和が全ての人々の心のうちにありますように。



被災地の現場の声を直に聞くことができた貴重な機会となりました

3回目の保育園児との交流会

オリーブの会・カトリック八木山教会 野田 和雄

6月26日（水）、オリーブの会は、津波被災者と、地元カトリック保育園との交流会を催しました。交流会は、オリーブの会が、亘理教会主導となって3年目を迎えます。

保育園の年長さん14名と、園長先生たちが、カトリック亘理教会の聖堂に来てくださいました。オリーブの会（スタッフと被災者）と子どもたちは、七夕飾りを作ったり、盆踊りをして楽しい時を過ごしました。



七夕飾り作りから笹竹への飾り付けまで保育園児と一緒に行いました

教会に入場する子どもたちを、オリーブの会の皆さんが拍手で迎えます。子どもたちは、少し照れくさそうですが、誇らしくうれしそうです。

聖堂に入った子どもたちは、まず、祭壇の前でお祈りします。それに合わせて、被災者もボランティアも手を合わせて、祈りの言葉に耳をかたむけています。若い元気な声の祈りが、心に浸みてきます。祈りの次は自己紹介ですが、名前を言うだけでも元気の良い子、恥ずかしがりやの子、先生の助けを求める子とさまざまです。「よろしくお願いします！」と言えると、大きな拍手がおこりました。

七夕飾りは、子どもと大人が混じり合い、助け合って作りました。色とりどりの鎖や袋、楽しい飾りをうれしそうに話しながら作っていきます。願いを込めた短冊には、「健康」「元気」「仲良く」「大好き」とさまざまな思いが書かれています。

飾り付けが終わると、盆踊り「月夜のポンチャラリン」を子どもたちが教えてくれました。オリーブの会のみんなも、見よう見まねで踊りました。うまくいかないと、笑いが全体に広がります。全身を使った楽しい踊りに、満足そうな笑顔が輝きます。踊り疲れる前に、子どもたちは保育園に戻っていきました。

静かになったところで、七夕飾りの前で「ハイ、ポーズ！」被災者一人一人の笑顔の写真を撮って、次のオリーブの会で配ります。みんなの顔は、盆踊りの余韻が残ったいい表情をしています。



保育園児に教わりながら一緒に盆踊り

七夕飾りの前で記念撮影

一方、台所では昼食作りが大忙しです。「今日のメニューは？」と聞く前から、カレーの香りがただよっています。副菜も、サラダ、漬け物、ケーキと彩り豊かなお皿ができあがりました。会場作りも皆が協力しますので、テーブル、イス、配膳が手慣れた順序で進んでいきます。

食前の祈りの担当は、ロボ フェリックス神父様。祈っていると、食糧事情が悪く食べたくても食べるものがなかった時代を思い出し、主の恵みのありがたさを感じました。被災者の皆さんにも、祈りはすっかり定着しています。

食事をしながらも、「保育園の子どもたちに元気をもらった」と笑顔で話す人、「食事は大勢で食べるものだね。楽しかったよ」「これからも続けてほしい」などの声が聞こえてきます。お代わり自由なので、カレーが大好きで、もう席を立つ人もいます。

こうして、お腹がいっぱいになると、恒例となった食後の歌を数曲歌います。みんなで楽しく歌い、最後のリクエストの曲を歌う頃には、お腹もこなれてきました。

今回は、7月26日（金）で、「着物地を使った針仕事ですよ」と確認して解散しました。

保育園児との交流は、3年目で、3回目になり、すっかり年間行事として定着してきました。これも企画してくださった亘理教会・マリアの宣教者フランスコ会、亘理カトリック保育園の皆さんの努力の成果です。津波被災者の復興住宅の孤独に寄り添う「オリーブの会」が安らぎの場として働き続けられるよう、お祈りください。



それを見ていた周りの方も、「新たなスターが現れた！」と爆笑されていました。



芸達者な利用者さんたちが素敵な踊りや歌を披露してくれました

食後、身体を動かしていただこうと、全員参加のパン食い競争を行いました。3 人一組で競い、順位によって、前日にボランティアさんとスタッフが急ぎょ作った金、銀、銅の手作りメダルをもらって授与しました。

余興の最後は、スタッフが衣装で仮装してのマツケンサンバショー。歌と踊りには、周りの方も大勢参加されて、大いに盛り上がりました。曲の間奏中には、本日の仮装大賞が発表されました。選ばれたのは、「新たなスターが現れた」と奇妙な踊りで周りを笑わせていた方で、スタッフから王冠をかぶせられていました。



新たなスターも誕生して大変盛り上がりしました

最後に、皆さん揃って記念撮影をして終了。お土産のお菓子を受けとりながら、皆さん笑顔で帰られました。

当日の来場者は、約 35 名。来られた方全員が主役となり、スタッフ、ボランティアも含めて、皆と一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

今回、パーティーを企画するにあたり、準備の段階から利用者さん、ボランティアさんを含め、たくさんの方からお手伝いとアイデアをいただきました。皆さん本当にお疲れ様でした、そしてありがとうございました。



最後にみんな笑顔で記念撮影 ☆

いつもと違う自分になって楽しんだ七夕パーティー

カリタス石巻ベース 佐藤 光典

カリタス石巻ベースでは 7 月 5 日(金)に毎年恒例となっている七夕イベントをいたしました。

今年のベースの七夕は「皆で作りに、参加して、全員が一緒に楽しめるものにしたい」と、スタッフでいろいろ考えた結果、「七夕パーティー」にしようと、衆議一決しました。昨年までの七夕祭りは、屋外にテントを張って、ゲームコーナーを設けたり、フランクフルトを焼いて提供するコーナーなど、露店方式で楽しみました。

そこから一転して、今年は雰囲気を変え、オープンスペースを七夕パーティー会場として昼食会と仮装と余興を含めた、誰でもが参加できる楽しいパーティーにしたいということから、いろいろと企画しました。

テーマも、「仮装をして、一日だけ、いつもと違う自分になって楽しもう」というもの。恥ずかしがり屋の方も、そうでない方も、眉毛やホクロを描くというちょっとしたメイクだけでもいい、大胆でもいい、いつもとちょっと違う自分になって楽しんでもらいたいという思いからでした。

当日は心配した天気も、朝から青空が広がる絶好のパーティー日和となりました。

開始 10 分前、奇抜なメイクと衣装で仮装をしたスタッフが入り口で出迎えると、皆さん仮装をしたスタッフを見て、いつもと違った姿にとっても驚かれています。声を上げて爆笑される方もいました。スタッフ同士も、あまりのおかしさにお互いの顔をまともに見られませんでした。



仮装して皆さんをお出迎えするスタッフ

11 時になり、スタッフによるあいさつと本日のプログラムの説明、そして約 1 時間のバイキング形式の昼食会からパーティーが始まりました。昼食のメニューは、夏らしく、そうめん、山形風だし、夏野菜の揚げ焼、味噌おでん、フルーツあんみつ、それに飲み物の麦茶、ジュース等です。「おいしいね」「みんなで食べると楽しいね」と同じテーブルの方々と話しながら、皆さん食事を楽しまれていました。

昼食と同時に、仮装に必要なメイク道具やいろいろな種類のかつら、衣装などが整えられた会議室は、着替え・メイクルームとして開放され、皆さんにぎやかに余興の準備をしていました。



いつものオープンスペースは昼食会場、会議室は衣装部屋に

13 時、お腹も満たされたところで、余興開始。オープンスペースの利用者さんたちは、韓国民族衣装のチマチョゴリを着ての踊り、奇抜な仮装をして「北国の春」、「チューリップ」の歌に合わせての踊りと体操、マジック、この日のためにカラオケボックスに通い、練習してきたという「青葉城恋歌」、そして山形民謡などを披露されました。また、仙台から来た「心の港」のメンバーにも、楽器の演奏や歌、踊りと、大いに盛り上げていただきました。

踊りを踊られた方の中に、ひときわ目立つ仮装で、奇妙な踊りを踊られる方を発見！ 普段は物静かな利用者さんですが、音楽が流れると同時に一気にはじけた感じになり、自己流の踊りを踊られていました。